

# しろくま つうしん 第10号



© @ butabulo

令和6年能登半島地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。能登半島ではいまだに避難所生活を余儀なくされ、断水なども続いており、普通の生活ができない方々がたくさんいらっしゃいます。町としても引き続きできる限りのサポートをしつかりとていきたいと思っています。

## ひきくと

11月にオープンした湯田中駅前のインフォメーションセンターは日々外国人観光客の方々への案内を行なっています。1月末までの約2カ月で6000人を超える方々に利用いただき、約6割が外国からお越しの方々でした。聞かれることが多いのが「各観光地にどうやって行けばいいか」や「食べるどころ」「おすすめのスポット」などです。スノーモンキー目的の外国人も多く、できればお猿さんだけではなく、志賀高原や北志賀高原、湯田中渋温泉郷など町の温泉も知ってもらい、楽しんでいって欲しいと思っています。日々スタッフの皆さんは頑張っ

ン美術館前も、来訪者の快適性を少しでも向上させるために、コンテナハウスの仮設トイレと待合室を設置しました。引き続き来訪される観光客の方々に良い経験をしていただき、また訪れたいくなる観光地を目指した改革を進めたいと思っています。さて、前号に続いて新年の抱負です。

## 小学校統合

町民の満足度を充実させ、町の若い家族の住みやすさを向上させ、町の価値を高めるためにも、学校の質は重要だと思っています。それが移住者を増やすことや、町の活性化にもつながります。これからの町づくりの中心となるプロジェクトの一つだと思っています。子どもたちにとって、他の町にはないぐらいの「素晴らしい教育環境」と「素晴らしい教育内容」両方の充実を図るためにも自治体として投資が必要だと考えます。妥協案には町は投資をしないことは明確に伝えてあります。統合小学校の方向性は今年度中に教育委員会から示されますが、これからも教育委員会としっかりと話し合い

ながら、早急に向向性を決め、子どもたち、山ノ内町にベストな学校づくりを目指していきます。

## 統合型スポーツクラブ

1998年にオリンピックの開催地になった町です。もつとスポーツが身近にあるべきだと考えていますし、スポーツで町を活性化したいとも考えています。スポーツは身体的な健康増進につながるだけではなく、精神的にも人間に必要な要素です。地球上の生き物の中で、スポーツをする生物は人間だけです。その特権を生かし、町の自然の中でスポーツが気軽に楽しめる環境を作るとともに健康にもつながり、若い世代の夢にもつながる、そんなスポーツの町づくりをしたいと考えています。

## 未来への挑戦

4月から役場の組織も新体制がスタートし、未来創造課を設置します。この課のミッションは、ゼロカーボンや新エネルギー、自治体DXへの道筋探し、新しい形の公共交通や住宅問題への取り組み、国際・国内交流など、町の未来を作るための企画を作り、実行することです。簡単に書くと、「町の価値を高め、新しい未来を作る」課になります。これから少子高齢化が進む中で役場組織も小さな組織を目指すべきです。しかし仕事

量は年々増えています。その問題を解決するためにはDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進し、高い生産性を持った「機能する小さな組織」に変化しなければなりません。役場の「今まで通りのやり方」からの脱却を目指します。自治体間交流では国際交流都市をもっと増やそうと思っています。今の国際交流都市ともしっかりと交流しつつ、もつと様々な言語の町とつながることで、子どもたちや町民の皆さんが世界の多様性を感じることができ、国際性を磨くことができると思っています。そして、昨今の暖冬・小雪も地球温暖化の流れだと感じています。次世代の子ども達に町の素晴らしい自然という資源を残すためにも、町をあげて地球温暖化を止め、健康な地球を取り戻す努力をしなければなりません。まずは電気自動車を使いやすい町を目指し、自然エネルギーの活用や森林の活用・管理を加速させ、カーボンネガティブな町づくりを目指します。余談ですが、今映画館で公開中の映画「ゴールデンカムイ」のロケ地として志賀高原プリンスホテルが利用されたそうです。私はまだ観ていませんが、観てみたいと思っています。

新しい時代の山ノ内町をつくるために、しろくま町長、引き続き頑張ります！

## 高齢者見守りおよび災害支援に関する協定を締結

当町は29日、コープながのと「高齢者等地域見守り活動に関する協定」および「災害時における応急生活物資供給等に関する協定」を締結しました。

高齢者見守り活動は、コープながのの職員が高齢者宅への配達の際に異変を察知した場合、町へ連絡をし、ひとり暮らしをしている高齢者世帯等の孤立死を防ぐことを目的とします。また、災害支援は、町の要請を受け、コープながのから町に対し応急生活物資を供給することを目的とします。



左からコープながの太田理事長、久保田副町長